

10月4日(日)は、小牧市新図書館計画に関する住民投票です。

なぜ今、 「新図書館計画」の住民投票なのか

新図書館計画の是非を問う住民投票が行われますが、この背景について調べてみました。

■新図書館の必要性

平成21年3月に「新小牧市立図書館建設基本計画書」が策定されました。新図書館に何が必要かを、市民アンケートや市内各団体へのヒアリングなどを元にまとめられました。背景として現図書館の老朽化が危惧されること、多様なニーズに応えるには手狭であることなどがあげられています。

●新図書館の基本方針

すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館
市民の様々な活動を支援する資料と情報
が豊富な図書館
問題解決のための図書館、情報発信のための図書館
時代の変化に対応できる持続可能な図書館
(基本計画書より)

■動き出した 新図書館計画

基本計画書策定から5年、平成26年5月、教育委員会事務局に新図書館建設推進室が設置され、新図書館計画がようやくスタートしました。

新図書館の建設は小牧市の街づくりの一大事業であると共に、市民の税金を投入する事業でもあります。そこで市は、限られた財源を有効活用するため、新図書館計画に「民間活力」を活用する方針を打ち出します。

そして、推進室設置2ヶ月後の平成26年7月、新図書館建設アドバイザリーとして民間事業者が公募され、8月26日に連携民間事業者として、CCC・TRC共同事業体
が選ばれました。

■新図書館コンセプト

アドバイザリー事業者の決定から2月半、平成26年10月に新図書館設計業務の公募が開始されました。公

募にあたり設計コンセプトに次の内容が加えられていました。「新図書館の利便性の向上及び利用者の増加等を図り、中心市街地の賑わい創出につながる図書館とする」



新図書館建設イメージ
市ホームページより

平成21年に策定した基本計画書の背景には、「(新図書館)建設予定地周辺の賑わいの中心」として、基本方針とは違う視点で「賑わい」に触れられていました。が、「賑わい創出」を強く全面に打ち出すまでの内容ではありませんでした。

■なぜ賑わいの創出か

新図書館の設計コンセプトに追加された「賑わいの創出」とい

う単語は、設計アドバイザリーとして委託を受けたCCC・TRC共同事業体の提案書のなかにありました。

・BOOK&CAFEを自主事業として導入、市民のコミュニケーションの場として機能させ、賑わいのある「場の提供」を実現
・小牧駅周辺のにぎわい創出につながる提案
(平成26年8月26日報道発表資料より)

共同事業者の代表にあたるカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)は、平成25年から佐賀県武雄市(人口5万人)にある「武雄市図書館・歴史資料館」のリニューアルを皮切りに、宮城県多賀城市(6万人)、神奈川県海老名市(13万人)と図書館運営事業に参入しています。既に運営の始まっている武雄市図書館で

は、館内に、カフェ(スターバックス)と書籍販売を自主事業として行う「複合型図書館」として話題になり、武雄市の観光スポットとしてリニューアルオープンから13ヶ月で100万人の来館者を数える地方の図書館となりました。



「グッドデザイン金賞」も受賞した
武雄市図書館 CCCホームページより

■賑わう図書館に影

新しいコンセプトの図書館としての「成功事例」として取り上げられた武雄市図書館もリニューアルから2年を経過し、その運営方針に問題点が指摘されるようになりました。



「選書問題」を報じる週刊誌

一つ目は、ニューズサイトや週刊誌報道で取り上げられた「選書問題」です。週刊朝日9月11日号によると、リニューアルに備えて前年の平成24年（2012年）、初期蔵書の入れ替えて約1万冊の書籍がCCCによって購入されました。しかし、その1万冊の中には、『「エラー」がわかるとWindows98/95に強くなる』『公認会計士 第2次試験2001』『旅行業界就職ガイドブック2008』などといった購入の妥当性に疑問符がつくものが多く含まれていました。

後日、CCCは選書の非を認め、「より精度の高い選書を行うべき点があった事を反省しております。」とプレスリリースを行っていません。

（9月10日付お知らせより）

同様の「蔵書問題」は来月10月1日にオープン予定の海老名市立中央図書館でも発覚。『シリコン製タジン鍋』『おろし金』『フライパン』『めがね拭き』といった、付録を主とした「ムック」が蔵書リストに含まれているとして、9月の海老名市議会で紛糾し、教育長が一部選書をやり直すと答弁する一幕もありました。



同じく「選書問題」にゆれる海老名市立中央図書館

■閉ざす図書館と市政

CCCが運営に関わる図書館では何故か行政主導で物事が急ピッチで決定し、市民に対して十分な説明や情報公開が行われないことが度々起こっています。ここでいう行政の情報公開とは、公共機関が保有する行政文書を市民からの請求により開示する制度で、小牧市情報公開条例にも目的として次の様に謳われています。

「開かれた市政の実現及び市民と市との信頼関係の増進に資することを目的とする（抜粋）」

しかし、CCCは図書館の指定管理者の課題として情報公開制度に対して次のような否定的な見解を示しています。

武雄市図書館の

取組み事例

■情報公開請求の問題

まず、情報公開請求によるノウハウ流出リスクが大きな問題であると感じている。

住民から請求があれば、行政は情報公開せざるを得ない。弊社のノウハウである図面、書架配置図がネット上にUPされるリスクがある。

また、公募エントリ資料も不特定多数に閲覧される可能性があり、ノウハウ流出リスクを常に抱えている状態である。

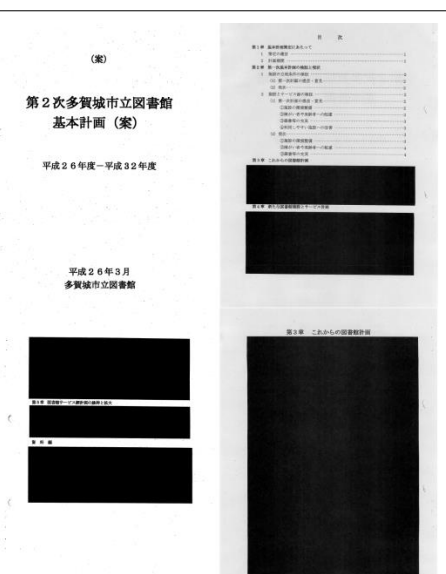
一般財団法人
地域総合整備財団
通称「ふるさと財団」
平成26年度
指定管理者実務研究会
報告書より

武雄市図書館のリニューアルにおいて市民

がその計画に疑問を感じて情報公開請求を行ったところ、条例で定められた2週間の期日は守られず、年単位で開示を遅らせる事態が次々に起こりました。

先に挙げた「選書問題」が今年になって発覚したのもそのためです。

— 〇 — 〇 —



大部分が黒塗りで開示された多賀城市立図書館基本計画（案）

また、多賀城市では、市立図書館基本計画書

がCCCの「ノウハウ流出」を防ぐために一面黒塗りで開示されるなど、開かれた図書館・市政とはほど遠い、文字通り「閉ざされた図書館・市政」が浮き彫りになりました。

■街の図書館とは

その答えは十人十色でしょう。小説を借りるためと答える人もいるでしょうし、受験勉強のための場所という学生もいるに違いありません。図書館に通う人の交流もあるでしょう。

— 〇 — 〇 —

しかし、図書館は、その街の未来をつくるために大変重要な「生涯学習施設」なのです。「賑わい創出」も街づくりには重要ですが、図書館の自分を今一度見直す時ではないでしょうか。

図書館の「年齢」は、10年で1歳とも言われています。10年後、20年後の街を行き交う人々の姿を思い浮かべながら、10月4日の住民投票について考えてみませんか。

制作・文責

Twitter @todotantan
Web todotan.com
2015/9/23 Ver.2